



今年は紅葉がぱっとしません。そんな中の一枚(今月7日撮影)

慧 光

金光寺寺報
第161号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

衆生に かけられた 大悲は 無倦である

「衆生にかけられた大悲」とは、阿弥陀如来が生きとし生けるもの全てに願いをかけてくださっている、そのお慈悲のところです。阿弥陀さまは、煩惱にまみれた私共衆生を救うために四十八の願をお建てになりました。親鸞聖人は、その四十八願の一つにつづめると第十八願におさまるのであって、その第十八番目の願が、如来さまのご本意(本音)が説かれた願として「本願」といわれました。

その阿弥陀さまの本音、第十八願には、「この弥陀が、仏になったならば、十方の生きとし生ける者よ、ほんとうに疑いなく私の国に生まれると思ってくれよ。そしてわずか十声でも私の名を称えていく者を、もし浄土に生まれさせることができなかつたら、私は正覚をとりません。ただ五逆罪と正法を謗るものはダメだぞよ」と、誓われ

てあります。「決して見捨てない、みんな救うぞ」といいながら、親殺しや仏法を謗る者はダメだとあります。これは、どのようににいただければよいのでしょうか。この「唯除五逆 誹謗正法」のご文は本願の抑止門として、親鸞聖人はここに阿弥陀さまの廣大無辺のお慈悲を深くいただいていたのです。それは、実は「五逆と誹謗正法の者が最も気にかかるぞ」との如来の深い思し召しにほかなりません。すでに罪を犯した者は「案ずるでないぞ、必ず救うぞ」と、そして、まだ罪を犯してない者は「謹んでたしなめよ、恐ろしいわざであるぞよ」とご注意くださるのであり、結局、五逆誹謗法の者こそ本願のお救いのお目当てといただくわけです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

ある日の金光寺 七五三

11月8日、東光寺の橋本倫寿ちゃんが七歳の、弟武蔵くんが五歳の児参式(七五三参り)でお参りに来てくれました。お母さん(お父さんは所要で欠席)、東光寺のおじいさん・おばあさん、ひいおばあさんと石川県金沢市からおじいさん、おばあさんがお二人の付き添いでお参りくださいました。



10月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2014年10月23日寂 満76歳
中園 直野 一 男 様
2014年10月30日寂 満94歳
祇園町 藤木 茂 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
11月9日現在 アクセス数 74,965人

仏教用語豆辞典

成就

いよいよ入学試験のシーズンとなりました。受験生やご家族にとっては、苦しい毎日でしょうが、大願成就の喜びを期待しています。「成就」とは、できあがること、成し遂げることに、願いや目的が成し遂げられることを意味する日常語です。仏教では、「成就」は身に具えていることを意味します。智や徳を完全に身に具えていることですが、煩惱成就の凡夫などという言葉もあります。「俱舍論」には「得に二種あり」として、今まさに得ようとするところを「獲」といい、得終わってさらにそれを維持していることを「成就」と呼ぶと記されています。また「成就」は完成することを意味します。「菩薩の諸波羅

蜜を成就せむ」という具合です。阿弥陀仏が本願を成就したこと、を説いた経文を「成就文」といいます。菩薩の十力の「成就衆生力」は、衆生を救済し、仏となることを成就させる力のことです。受験生のみなさん、日ごろ身に具えた実力を発揮して、大願成就のため、がんばってください。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

住職ひとりごと

七月以降お葬式が多いことと報恩講へ向けてのお参りが始まったこと、境内の掃除などが相まつてのことでしょうか、疲労回復が思うようにできません。生あくびばかりしている私を見て坊守曰く「年のせいね!」確かにそのとおりだと思っています。時間があれば寝てばかりいるようで、その内、なまけものお名前をいたたくのではありませんかと心配しています。そんな名前をいただいている動物がいますよね。私に比べると本意なのではお通夜のご縁でしたが、お通夜が終わったの帰路、とてもきれいな月を車中から見ることができました。前日五日の満月が「後の十三夜」(ミラクルムーン)ということを知りました。歴の知ることができました。二回目は九月十三日の満月を「後の十三夜」というのだそうです。百七十一年ぶりに観測できたそう、この次は九十六年先。とても生きてはいません。貴重なお月見ができました。(住職 松井卓郎)

聖人報恩謝徳の縁

報恩講

報恩講は宗祖親鸞聖人の遺徳をたたえ、その恩を報ずる法要である。親鸞聖人三十三回忌に際し、報恩講と名づけられて以来、毎年宗祖のご命日を縁として、脈々と営まれ続けている。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の本願の教えを明らかにされ、その九十年のご生涯を、念仏の道ひとすじに歩まれた。今、私たちが、浄土真宗の救いのよろこびにあえたことも、聖人のご苦勞のたまものである。

報恩講に際し、蓮如上人はお示しになられた。すみやかに本願真実の他力信心をとりて、わが身の今度の報土往生を決定せしめんこそ、まことに聖人報恩謝徳の懇志にあひかなふべけれど、他力の信心を得て浄土の往生を決定することこそ、親鸞聖人のご恩に対するなよりの報謝となるのである。

(『拝読 浄土真宗のみ教え』中 四十四、四十五頁)



ポポの花 (薄紫・6月撮影) 提供 小高岩雄さん

先月十四日から恩講が始まり、今日(八日)までにすでに四地区が終わりました。また、今年も先月十五日から秋参りを始めました。恩講と秋参りが終わった軒数は百五十三軒、未済は百七十二軒になります。

明日(九日)から、いよいよ本格的な当山報恩講までへのお参りが始まります。というところで今月は『拝読 浄土真宗のみ教え』の中から「報恩講」という法話を掲載しました。

まず、報恩講の流れについて

てふれたいと思います。最初に各お宅での報恩講をつとめます。当山の場合は、それが各地区で行われる恩講に際しての各お宅でのお参りであり、恩講がない地区では秋参りと称して私が各お宅をお参りするご縁です。

次に当山(手継ぎ寺)の報恩講をつとめます。金光寺は毎年十二月十五、十六の両日で報恩講をつとめます。最後に、本山の報恩講にお参りします。本山の報恩講は毎年一月九日から十六日まで一週間の日程で執行され、宗祖親鸞聖人の祥月命日におつとまりになりますので、御正忌報恩講といえます。

これが浄土真宗門徒がつとめなければならぬ報恩講です。

どうぞ、本年も当山の報恩講へお参りくださり、蓮如上人お示しの『御文章』「御正忌」章をお聞きいただき、親鸞聖人報恩謝徳のご縁をおつとめいただければと念ずるばかりです。

法語の世界

〈原文〉

前々住上人(蓮如)、「おどろかすかひこそなけれ村雀 耳なれぬればなるこにぞる」、この歌を御引きありて折々仰せられ候ふ。ただ人はみな耳なれ雀なりと仰せられしと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百七十四)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、おどろかすかひこそなけれ村雀 耳なれぬればなるこにぞる 群がる雀を驚かして追いはらう鳴子の音も、今では効き目がなくなつた。耳なれした雀たちは、平気で鳴子に乗っている。という歌をお引きになつて、「人はみな耳なれ雀になつてい」と折にふれて仰せになりました。

二〇一四(平成二六)年

金光寺報恩講のお知らせ

- 日時
- 十二月十五日 午前十時〜 日中法要(上下参り) (九区・十三区・十四区地区) 午後七時〜 速夜法要(お番)
 - 十二月十六日 午前十時〜 日中法要(中央参り) (十区・十一区・十二区地区)
- 講師
- 熊本教区 熊本西組 両巖寺副住職
 - 浄土真宗 本願寺派 布教使 郡 浦 智 明 師

その他 お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本)をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要(午前十時からの法要)にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後七時からの速夜法要にお参りください。

報恩講は、親鸞聖人のご命日を縁として、一年に一度、浄土真宗の門信徒が阿弥陀さまのみ教えに出遇わさせていただく、**浄土真宗では一番重要な法座です。**是非、ご勝縁をお結びください。